

1 (2) 各調査項目の単純集計結果概要
(生活実感、政策の重要度、市政への関心度、幸福実感)

「市民生活実感調査」で実施している4種類の調査項目の全体像を把握するため、以下のとおり各調査項目の単純集計結果をまとめた。

(1) 回答状況

世代別・性別	有効回答数	構成比
市全体	1,156 (1,122)	—
男性	481 (432)	41.6% (38.5%)
女性	675 (690)	58.4% (61.5%)
若年層男性	90 (90)	7.8% (8.0%)
若年層女性	182 (165)	15.7% (14.7%)
中年層男性	159 (134)	13.8% (11.9%)
中年層女性	218 (218)	18.9% (19.4%)
高年層男性	232 (208)	20.0% (18.5%)
高年層女性	275 (307)	23.8% (27.4%)

居住区別	有効回答数	構成比
市全体	1,165 (1,130)	—
北区	100 (88)	8.6% (7.8%)
上京区	70 (55)	6.0% (4.9%)
左京区	129 (125)	11.1% (11.1%)
中京区	82 (89)	7.0% (7.9%)
東山区	34 (32)	2.9% (2.8%)
山科区	103 (103)	8.8% (9.1%)
下京区	45 (68)	3.9% (6.0%)
南区	76 (76)	6.5% (6.7%)
右京区	159 (156)	13.6% (13.8%)
西京区	146 (116)	12.5% (10.3%)
伏見区	221 (222)	19.0% (19.6%)

※ () 内は23年度の値。なお、居住区別と世代別・性別で市全体の有効回答数が異なるのは、例えば、居住区は回答しているものの、年代や性別は未回答の人がいるためである。以降、本報告書においては、断りのない限り、市全体の数値は世代別・性別の合計値(1,156)を用いる。

(2) 生活実感

今の市民生活がどうなっているかを把握するため、「利用しやすく頼れる医療や検診の機関がある。」など、130の設問について、「そう思う」「どちらかというと思う」「どちらとも言えない」「どちらかというと思わない」「そう思わない」の5段階で回答した結果である（どれにもあてはまらない場合は無回答）。

24年度は肯定的な回答（「そう思う」「どちらかというと思う」）が39.5%を占めた。また23年度と比較すると、「どちらとも言えない」と「無回答」が大きく増加するとともに、否定的な回答（「そう思わない」「どちらかというと思わない」）が増加し、肯定的な回答（「そう思う」「どちらかというと思う」）が減少していることも読み取れる。

回答分類	平成23年度 (1,122)		平成24年度 (1,156)		前年度 との差
	回答数	割合	回答数	割合	
そう思う	8,109	11.1%	8,037	10.7%	↓0.4%
どちらかというと思う	22,453	30.8%	21,622	28.8%	↓2.0%
どちらともいえない	24,258	33.3%	22,631	30.1%	↓3.2%
どちらかというと思わない	9,053	12.4%	9,623	12.8%	↑0.4%
そう思わない	4,691	6.4%	5,133	6.8%	↑0.4%
無回答	4,358	6.0%	8,094	10.8%	↑4.8%
総数	72,922	100.0%	75,140	100.0%	—

(3) 政策の重要度

京都市政に係る以下の27の政策分野のうち、重要と思う分野を五つまで選択した結果である。24年度は環境、市民生活の安全、子育て支援、高齢者福祉、消防・防災の分野で、重要であると選択された割合が30%を超えた。23年度と比較すると、特に学校教育が増加し、高齢者福祉が減少した。

政策分野 (27分野)	平成23年度 (1,086)無回答除く			平成24年度 (1,122)無回答除く			前年度 との差
	人数	割合	順位	人数	割合	順位	
環境	347	32.0%	4	362	32.3%	4	↑0.3%
人権・男女共同参画	115	10.6%	20	111	9.9%	22	↓0.7%
青少年の成長と参加	132	12.2%	18	145	12.9%	18	↑0.7%
市民生活とコミュニティ	193	17.8%	12	194	17.3%	12	↓0.5%
市民生活の安全	346	31.9%	5	367	32.7%	3	↑0.8%
文化	157	14.5%	15	172	15.3%	14	↑0.8%
スポーツ	73	6.7%	25	84	7.5%	24	↑0.8%
産業・商業	180	16.6%	13	183	16.3%	13	↓0.3%
観光	261	24.0%	7	256	22.8%	9	↓1.2%
農林業	81	7.5%	24	78	7.0%	25	↓0.5%
大学	110	10.1%	22	115	10.2%	20	↑0.1%
国際化	132	12.2%	18	132	11.8%	19	↓0.4%
子育て支援	374	34.4%	2	405	36.1%	1	↑1.7%
障害者福祉	259	23.8%	8	267	23.8%	8	0.0%
地域福祉	149	13.7%	17	148	13.2%	17	↓0.5%
高齢者福祉	411	37.8%	1	362	32.3%	4	↓5.5%
保健衛生・医療	291	26.8%	6	269	24.0%	7	↓2.8%
学校教育	246	22.7%	9	297	26.5%	6	↑3.8%
生涯学習	113	10.4%	21	115	10.2%	20	↓0.2%
歩くまち	166	15.3%	14	156	13.9%	16	↓1.4%
土地利用と都市機能配置	58	5.3%	27	53	4.7%	27	↓0.6%
景観	211	19.4%	11	240	21.4%	10	↑2.0%
建築物	59	5.4%	26	67	6.0%	26	↑0.6%
住宅	84	7.7%	23	105	9.4%	23	↑1.7%
道と緑	152	14.0%	16	162	14.4%	15	↑0.4%
消防・防災	372	34.3%	3	368	32.8%	2	↓1.5%
くらしの水	230	21.2%	10	216	19.3%	11	↓1.9%
平均	196	18.1%		201	17.9%		↓0.2%

(4) 市政への関心度

市政に対する関心度合を、「関心がある」「少しは関心がある」「あまり関心がない」「まったく関心がない」「わからない」の5段階で回答した結果である（どれにもあてはまらない場合は無回答）。24年度は肯定的な回答（「関心がある」「少しは関心がある」）が79.6%を占めた。また23年度と比較すると、特に「あまり関心がない」が増加し、「関心がある」が減少した。

	関心がある	少しは関心がある	あまり関心がない	まったく関心がない	わからない	無回答
平成23年度 (1,122)	35.8%	47.3%	8.5%	1.3%	2.6%	4.5%
平成24年度 (1,156)	33.1%	46.5%	10.3%	0.9%	3.9%	5.3%
前年度との差	↓2.7%	↓0.8%	↑1.8%	↓0.4%	↑1.3%	↑0.8%

(5) 幸福実感

市民の幸福実感を「とても幸せだと思う」「どちらかという幸せだと思う」「どちらとも言えない」「どちらかという幸せではないと思う」「不幸せだと思う」の5段階で回答した結果である（どれにもあてはまらない場合は無回答）。肯定的な回答（「とても幸せだと思う」「どちらかという幸せだと思う」）が全体の74.0%を占めた。

	とても幸せ だと思う	どちらか という幸 せだと思 う	どちらとも 言えない	どちらか という幸 せではな いと思 う	不幸せだ と思う	無回答
平成24年度 (1,156)	17.7%	56.3%	16.7%	3.7%	1.4%	4.2%

※幸福実感の調査は24年度に初めて実施したため、23年度との比較ができない。